



明けまして
おめでとうございます。
今年も自転車で
走り回ります。

ほんごう照代のブログ
<http://hongou.miel.net/>
(「本郷照代」で検索可能)
TEL 0563-72-7260

合併初年度を ふりかえって 西尾の未来をみんなで作ろう

規模拡大の効果は

市長・町長 3人↓1人
教育長 4人↓1人
副市長・副町長 5人↓2人
市・町議会議員 60人↓34人
(人件費2億6千万円縮減)

もともと合併は「究極の行政改革」といわれて、地域の経済が衰退からやがて破綻に向かうのを食い止め、現状維持をはかるもの。そして、その間に持続可能な地域の未来の土台を築くもの。

ですから、合併効果はすぐには私たち住民の目にみえませんが、一番確実な効果は、旧幡豆郡の町長及び特別職が失職したこと。そして町議会議員が三十二人から十人に減って、人件費約二億六千万が削減できたことでしょうか。

でも、これまで二万人から十万人だった西尾幡豆が安城市と匹敵する十七万人の一つの市に大きく生まれ変わったことは重要です。

その効果はこれから出てくると思います。たと



通算第18号
発行
ほんごう照代応援隊
西尾市一色町味浜北乾地58

えば熱池交差点の道路整備などは県や国にこれまで以上に強力で要望できるとしよう。

また、一色町に関して言えば、こんな合併のメリットも生まれました。

- ・家具転倒防止金具等の取り付け費用を一部、市が負担(65歳以上の一人暮らし又は高齢者のみの世帯、又は障害者)
- ・保育料3人目から無料
- ・子ども医療費、通院・入院ともに15歳まで無料
- ・福祉タクシーチケット、一ヶ月当たり

旧幡豆郡では改善を求める声

お昼のサイレンを復活してほしい

農業・漁業に従事する人の多い一色町ではサイレンの音と共に仕事を切り上げ、昼食に戻るといふ長年の生活習慣がありこれが狂ってしまったという話です。

六月・十二月議会の一般質問で取り上げられ、

食生活改善推進員講座
(2011.12.19)



一色住みよい環境を守る会の「年越しそば打ち」
(2011.12.18)



色んな所で、色んなグループの活動が・・・

- ・3枚交付(障害者)
- ・介護保険料3900円が3700円に

「チャイムという形で復活も」という市長の答弁が得られました。

でも、昼のサイレンがなくなったことについては「これで赤ちゃんがぐっすり昼寝できる」「授業中の生徒の集中力が途切れないで済む」などの歓迎する声もあるのを見落としてはならないと思います。

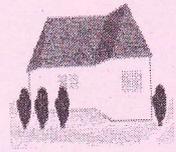
六万石くるりんバスを旧幡豆郡にも廻るようにしてほしい

という声もよく聞きます。現在、年に三千八百万円の事業費で三台のバスが旧西尾市内を走っています。しかし、そのバスが満員だったことは一度も見ることがありません。たいてい数人の利用です。

百六十平方キロメートル(安城市の約二倍)と広大になった新西尾市内で、より投資効果のある、いっそ全く新しい公共交通システムの考案が強く求められます。(裏へ)

旧役場庁舎の改修をしてほしい

西尾市役所一色支所となつた旧役場庁舎。



部屋はいっぱい余っています。古くなった老人福祉センターで不便な思いをしてボランティア活

こんな誤

「合併したら税金が高くなった。」こんな話も耳にしますが、実際の所はどうなのでしょう。

「住民税」「所得税」
＝合併前と同じ

「都市計画税」＝0.2%が0.28%に

「国保税」＝個々に応じて高くなる場合と安くなる場合がある

「住民税」や「所得税」の税率は合併前と変わっていません。それなのに「住民税が高くなった」とか「所得税が高くなった」というのは、案外、前の年に扶養家族が亡く

動をするより、何とか旧庁舎を改修して広々とした活動場所を確保できないでしょうか。

また、老人のみならず色んな年代の人たちが集えるようなコミュニティカフェのような施設がでないでしょうか。公民館談話室(喫茶店)もなくなって寂しい限りです。

解も

なつたりで控除が減つたことによるのが理由だったりしました。

「都市計画税」は、農地の一部が宅地並みに課税されるようになったので、上がった人もあります。

「国保税」は、税率が複雑に組み合わされているので、一概に言えません。人によって高くなった人と安くなった人があ

防災について

ともに作る安心安全な町



東日本大震災、福島原発事故後、私たちの意識は大きく変わりました。

みんなが力を合わせて困難を乗り越えていこう、という意識がこれまで以上に強くなっていると思うのです。

下欄にも書いたように馬場中山地区の大震災後の取り組みは、私たちに大きな示唆を与えてくれます。住民約二百人という、私の住む味浜七部全体の数とほぼ同数です。

災害時、老人・壮年・若者・男・女・子どもそれぞれが持つ力を出し合つて、ひとつひとつ困難を乗り越えていく方策は本

当に私たちにも参考になることばかりです。

そこにはやはり、強力なリーダーシップを持つた人の存在が不可欠です。きつとどの町・地域にも「歌津のクラさん」のようなリーダーがいるはず！と私は楽観しています。

「孤立集落 どっこい生きる」

テレビ番組から

昨年11月6日(日)NHKスペシャル『孤立集落 どっこい生きる』を観ました。皆さんもご覧になりましたか。生活道路を寸断され、行政の支援も届かなかった宮城県南三陸町馬場中山地区の住民が、無い無いづくしの中で知恵を出し合い、ひとつひとつ復興計画を自らの手で実現していった8カ月を追ったものです。今年1月5日には、その後のワカメ漁復活の様子も放映されました。

そこには、強力なリーダーシップを持ったひとりの地区役員とさまざまな得意分野で力を発揮できる住民と底抜けに明るい女性達の姿がありました。衝撃でした・・・。

町内の開正地区がいつも実際の防災訓練をしてみえるので、リーダーの方に「もっとこの開正方式を町中に広めて下さいよ」と言ったら「いや、私は開正地区の命だけ責任持って守ります」と返されたことがありました。

この放送を見て、その言葉の真実の意味とリーダーさんの誠実さを改めて理解したことでした。

編集後記

デザインを一新しての「てるてるニューズ」で。今後も必ず議会傍聴に出かけ、合併後の町づくりが私たち全体の幸福UPにつながるようしっかりと見続けていきたいと思ひます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

西尾市議会傍聴記(消防団は)

十二月の定例会は消防団関連の一般質問に關心が高く、十時の開始時間前に既に傍聴席は満席、私も別室でのモニター傍聴と相成りました。海辺に住む私たちがは殊のほか震災に關心が高く、消防団に対する期待も大きい中で暮らしてきました。それが、あるし、その内容に立腹、新年度の団員募集に難渋しているのは町内会長さんです。

誤解を与えるような記述があつたので、そのことを巡って初日から論戦が繰り広げられました。チラシにより深く傷つ

実際の一般質問では、チラシの調子と違つて、攻撃もだいたいぶトーンダウンし「西尾市全体で消防団を作つたらどうか？」という提案に至つて「あれっ？」という感じで終わりました。これまでの消防団に何の問題もないとは言いませんが、消防団員が不要とは言ひ過ぎでしたね。